

おの１００での経験と「今」

私は、第2回と第3回のおの１００に学生ボランティアとして参加させていただきました。そこで得たものは言葉には表せないくらいたくさんあって、今でも私の良い思い出であり、経験したことが私自身の人生にも生かされていると感じます。

私は4月から社会に出て働いています。私の「今」に、おの１００で経験したことがどう生かされているのか、おの１００と「今」を交えながらお話させていただければと思います。

まず、おの１００でのスタッフの動きですが、本番のために何ヶ月も前から活動が始まっています。

スタッフは、１００キロ完歩したいという子どもたちの希望をどうすれば現実出来るのかを考え、実践していきます。そのために最初は、スタッフとしての役割や心構えについて、研修を通し学んでいきました。自分を見つめ直し、自分を知る機会でもありました。

一人ひとりがスキルアップしたら、次は数人の係りでの活動が始まります。おの１００では一人ひとりのスタッフに係りを任命してもらいます。係りの中で自分の役割を持ち、本番に向けてと本番を活動していきます。まさに、一人ひとりの力が重なり合って本番の成功を収めることが出来るといったところでしょうか。

私は今、看護師として働いています。看護もチームで行っています。患者さんの「こうなりたい」という想いが叶うように医療スタッフ全員で支え、時には専門的な視点で導いていくことが大切な役割です。

“役割を果たす”というのは、自己満足で終わるものではなく、実際に相手のためになっていなければ意味がありません。また、“相手のためになっている”と判断するのは自分ではなく相手なのです。それは、おの１００で“子どもたちの希望のために”私が持たせていただいた役割と共通するものがあると思っています。

多くの業務をこなしていくと「あ〜、今日も頑張ったな」と達成感を感じます。でも、それは自己満足で、“ただやった気になっている”だけではないか？と振り返ることがあります。いつでも原点に戻って振り返ることを心掛けています。

こうして、客観的に自分を見つめることが出来るようになったのも、おの１００に参加させていただき、その大切さを自分で経験することが出来たからだと思っています。

また、社会に出るとますます多くの出会いがあることを実感します。

おの１００でたくさんの仲間と出会い、仲間作りを通しコミュニケーション能力を養うことが出来たことは、社会人となった今でも生かされていることの１つだと思います。

人生において、“あの体験があるから、今の自分があるんだ”と思える「あの体験」を持っていることは一番の強みだと思います。

こうして振り返ってみると、学生ボランティアとしておの１００に参加したことは、学生だからこそ、その時期に出来た貴重な体験だと思います。また、社会に出るための準備にもつながっていたと感じています。

うまく言葉で伝えることが出来ませんが、多くの方におの１００に、是非参加していただき、体験して欲しいと心から思います。

最後に、柿本団長をはじめ、おの１００で出会ったすべての方々に感謝いたします。ありがとうございます。